

# 二枚橋焼却場の跡地に新たに建設 調布市クリーンセンターの 内覧会に行ってきました



正面入り口から、左管理棟、右作業棟（黒っぽい部分は二重壁）

ごみ・環境ビジョン21 運営員 多田 眞

調布市が二枚橋焼却場跡地にクリーンセンターを建て、その内覧会が1月16日にあると聞いて行って見た。

二枚橋焼却場とは調布市、府中市、小金井市の可燃ごみを焼却していた施設で、1957年に稼働した。2002年のダイオキシン法に基づく改良を経て、老朽化に伴う焼却場の建て替え計画は土地を所有する3市の思惑の違いと住民の強い反対で2004年に中止となって廃止が決定。2007年春に処理を停止して、施設解体後は更地のまま迷走していた場所である。

現在敷地は調布市と小金井市の2市に集約され（府中市は2市に売却）、敷地面積11,100㎡のうち調布市の敷地面積は約5,914㎡で、ここに調布市クリーンセンターが建設された。残り約5,186㎡の敷地は小金井市が所有していて、同市もここにリサイクル関連施設を建てる計画がある。

調布市クリーンセンターは、これまで分散していた粗大ごみ、古紙、古布、びん、缶、古紙、古布、し尿の処理施設を統合したもので、再利用、再資源化を目的とし、サーキュラーエコノミーへの拠点として期待される。

施設の留意点として挙げられるのは、騒音、臭気、有害物質を含む排水、作業員に対する作業環境等。そこで施設側では以下のような対応をしている。

作業棟の壁は二重構造で防音に配慮。中で作業をするフォークリフト類は全て電動式である。車両の出入り口は道路側に設けず敷地内部に設けてあり、エアーカーテンを設置して車両が入場後はシャッターで密閉され、搬出入作業は全て場内で行われる。

建物自体は内部の圧力が低い陰圧になっているので臭気は外部に漏れない。管理棟には食堂や休息室が完備され、作業員に快適な環境を提供（休息室を別にする等外国人労働者に対する配慮も）。展示室や会議室もあり、見学者への積極的対応がされている。



作業棟。左の機械は缶選別圧縮機、奥が缶貯留ヤード、手前がビン作業場

## …………… 調布市クリーンセンターの概要 ……………

事業名称：調布市新クリーンセンター整備事業

所在地：東京都調布市野水2-1-1

管理棟 (1,344.80㎡) 作業棟 (3,091.22㎡)

施設規模：古紙 56.8 t / 日 布類 8.1 t / 日

缶 2.9 t / 日 ビン 9.4 t / 日

粗大ごみ 6.4 t / 日

従業員数：32名（うち外国人労働者10名）

本格稼働：2019年（平成31年）4月。外部委託。

担当部署：調布市環境部ごみ対策課クリーンセンター

\*「調布市新クリーンセンター施設整備実施計画」で検索すると、施設整備実施計画の概要が読めます。



作業棟。右側は古紙・古布ストックヤード。防音のため壁は二重になっていて、内壁には防音材が使用されている。車両は東八道路にたまるのを避けるため、敷地内を一周するように走り、奥の入り口から入場する。



管理棟1階。粗大ごみストックヤード。